

第24回近畿薬剤師学会のプログラム

1/2

座長からのここがイチ押し！ 見どころ・聴きどころ

シンポジウムならびに分科会の各座長からのメッセージです。見どころ、聴きどころ満載のプログラムを準備しておりますので、まだ申し込んでいない方は参考にしてください。

シンポジウム 14:00～17:00

生と死をみつめて

(兵庫県薬剤師会常務理事 金 啓二)

人間は生まれてきた以上、必ず死んでいく。そんな自然の摂理の中で、コロナ禍に見舞われた私たちの生き方をもう一度見つめ直す絶好の機会と捉え、本シンポジウムを企画いたしました。生を輝かせるために、生と死を見つめていきたいと考えております。

分科会① 14:00～17:00

薬剤師における医療ICT

「電子処方箋の全貌とそれから見える今後の薬剤師における医療ICTとは」

基調講演・パネルディスカッション

(兵庫県薬剤師会副会長 鄭 淳太)

今、薬剤師に求められる医療ICTを皆さんは、正しく理解していますか？マイナンバーカードの利用、マイナポータル、EHR、PHR、HPKI、電子顔認証、データヘルス改革、電子処方箋等々、社会そして薬局を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。社会保障制度のICT化には、薬局は欠かせない存在です。今求められる薬局の役割を一緒に考えてみませんか？今更聞けない、理解していなかったICTを聞いてみませんか？

分科会② 14:00～17:00

薬薬学連携「薬薬学で進める薬剤師の卒後教育・人材養成」

(兵庫県病院薬剤師会常任理事 池末 裕明、兵庫県薬剤師会理事 碓井 裕恵)

医療の高度化・専門化が進展するとともに、地域医療の質向上への期待が寄せられ、薬剤師の卒前および卒後教育・生涯教育の重要性が高まっています。本分科会では、薬薬学の様々な枠組みで進める人材育成・研修等について、講師の先生方から特徴ある取り組み事例をご講演いただきます。様々なご経験から学ぶことは多く、本分科会での議論が、今後の人材育成の進展や更なる連携強化に繋がる機会になるものと楽しみにしています。

分科会③ 14:00～17:00

専門医療機関連携薬局・地域連携薬局

基調講演

(兵庫県薬剤師会副会長 大澤 泰輔)

改正薬機法での薬局の定義では「調剤業務を行う場所」に加え「薬剤及び薬学的知見に基づく指導の業務を行う場所」が追加され、すべての医薬品を扱うという薬局の姿が法律で規定された。そのために今後の薬局のあるべき姿に向けて取り組む手段のひとつが地域連携薬局・専門医療機関連携薬局である。そこを目指す薬局・薬剤師に向けて、元厚生労働省保険局医療課薬剤管理官であった日本薬剤師会専務理事 磯部総一郎が熱く語る！！

分科会③ 14:00～17:00

専門医療機関連携薬局について

シンポジウム

(兵庫県薬剤師会常務理事 岡本 禎晃)

兵庫県薬剤師会と兵庫県病院薬剤師会が共同で取り組んでいます「先進的薬剤業務推進委員会」について朝来医療センターの辻井聡容先生に具体的な内容を解説いただきます。薬剤師連携でお困りの先生方のご参考になると思います。また、専門医療機関連携薬局をとお考えの先生方には、祥漢堂薬局の吉留実慧子先生に、ご自身のご経験から、取得までのご苦労についてお話いただきます。

地域連携薬局について

シンポジウム

(兵庫県薬剤師会常務理事 藤本 高弘)

2015年に策定された「薬局ビジョン」を背景に2021年8月から地域連携薬局の認定制度がスタートしました。薬機法改正により薬局、薬剤師の機能にスポットライトが当てられ、ひとりでも多くの薬剤師が表舞台に立ち、個々が有する知的財産を集約し、集合知として多職種の方に発信、行動していくことが急務です。地域住民を真ん中にすべての薬局が健康サポート機能を持った地域連携薬局としてエントリーでき、また令和の時代に求められる薬局薬剤師の在り方のヒントを3人の演者からそれぞれの立場から経験談を交えアドバイスをいただきます。

分科会④ 14:00～17:00

せまりくる大災害に備えて

基調講演

(兵庫県薬剤師会常務理事 安田 理恵子)

いつ起こるかわからない、いや、いつ起こっても不思議ではない『せまりくる大災害に備えて』、兵庫県医師会「兵庫JMAT」あるいは日本医師会「統括JMAT」として、被災地で指揮を執ってこられた兵庫県医師会常任理事 杉町正光先生より、これまでの活動と今後について、また多職種が協働するJMATの中での薬剤師についても熱く語っていただきます。我々薬剤師にできることを、せまりくる大災害に備えて準備するためにぜひお聞きいただきたい。

シンポジウム

(兵庫県薬剤師会理事 石塚 正則)

『災難は忘れたころにやってくる』災難＝災害と解すればこの言葉は死語。今は自然災害・人的災害・生物化学的テロ、そしてコロナ禍という真っ只中で終わりは見えない。

今回は本来ならば消防、警察、自衛隊等々を交えのシンポを考えていたが、医療職と行政の立場で自助・共助・公助の必要性を過去から紐解き現状そして高い確率で起こるであろう南海トラフ地震に向けて熱き討論の場になる事を期待している。